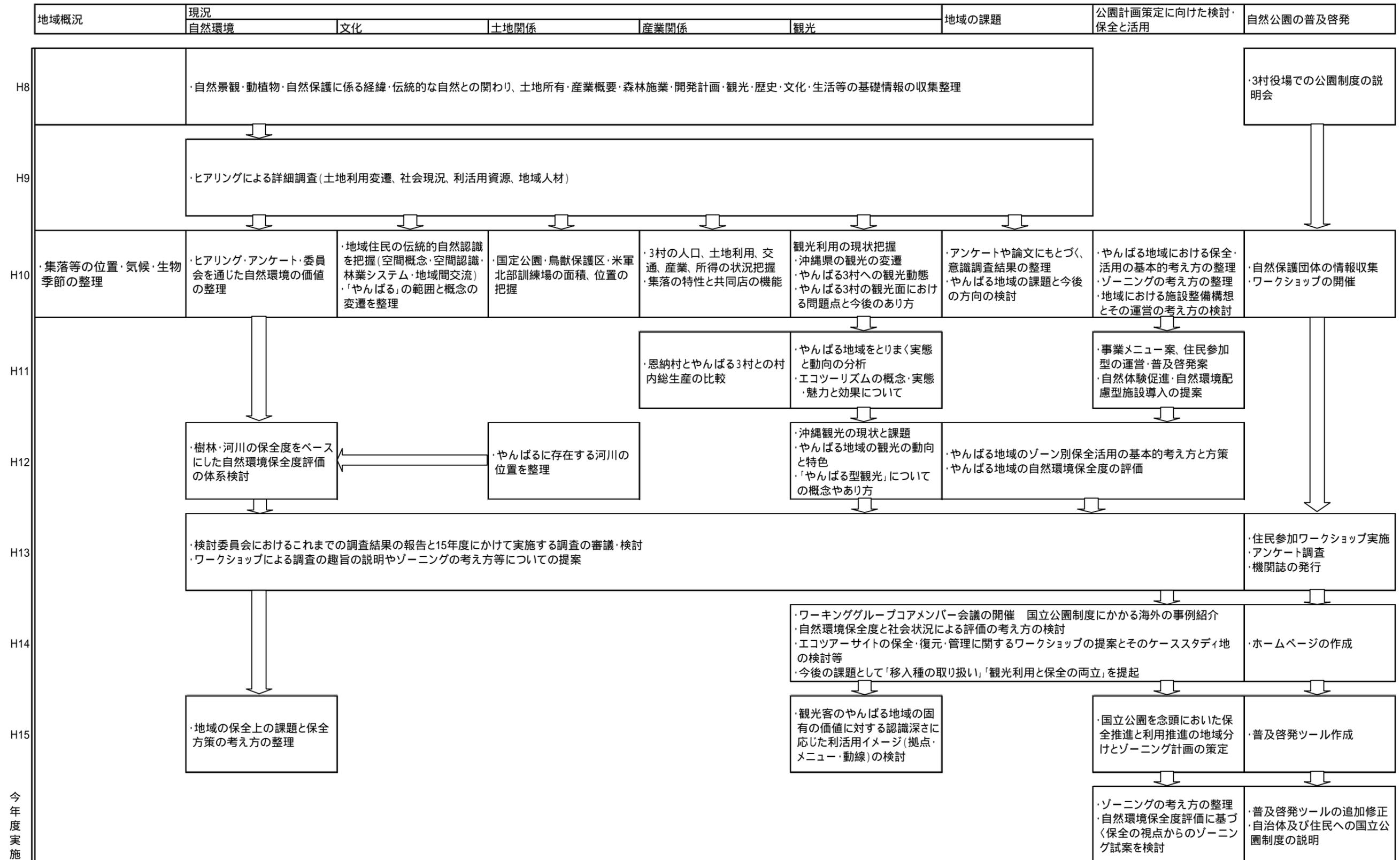


やんばる地域の国立公園に関するこれまでの調査の概要

1. 過去の調査概要(平成 16 年度調査報告書より抜粋)



2. 年度ごとの調査概要

やんばる地域の国立公園指定に向けた環境省の取り組みの経緯として、過年度調査の概要を以下に示す。

(1) 平成8～9年度調査

環境庁(当時)では、北部訓練場返還後の跡地を将来的に国立公園に指定することを視野におき、平成8年度に『やんばる地域自然環境概況調査』を実施した。同調査ではやんばる地域の自然景観・動植物・自然保護に係わる経緯・伝統的な自然との関わり、土地所有・産業概要・森林施業・開発計画・観光・歴史・文化・生活等についての基礎情報の収集・整理を行うとともに、3村役場で公園制度の説明会を行った。

平成9年度には『やんばる地域保全活用方策検討調査』を実施し、現地ヒアリング等を通じて平成8年度に収集・整理した情報に関する詳細調査を行い、やんばる地域の土地利用変遷、社会現況、利活用資源や地域人材に関するとりまとめを行った。

(2) 平成10年度調査(『やんばる地域自然環境保全活用基本計画検討調査』)

平成8・9年度の調査を基にやんばる地域の現況、地域住民の伝統的自然認識、「やんばる」の範囲や概念の変遷を整理し、課題抽出を行うために自然保護団体代表を招いたワークショップを開催した。

また、この課題を解決するための方策として「やんばる地域の個性化」を基本方向に定めた。「やんばる地域の個性化」とは、全国、全世界から注目を受けているやんばる地域の特異な自然、あるいは地域の自然と住民との関わりの結果として生まれた文化や集落景観をやんばる地域の特性として最大限に活かすことであり、那覇や名護とは異なる特性を踏まえ沖縄を代表する拠点の1つとしての地域発展を目指すための方策を採っていくことである。

さらに委員会を通じた検討を実施し、貴重な自然を最大限活用しつつ保全を図るために地域を3ゾーン程度に区分するゾーニングの考え方、新しい自然の利用形態としてのやんばる型エコツアーの導入と必要となる施設の整備構想を提案した。

(3) 平成11年度調査(『やんばる地域基本整備構想策定調査』)

平成10年度の検討において示した基本方向に沿って基本整備構想を策定するにあたり、観光に着目し、沖縄観光の現状と動向およびやんばる地域における観光の現状と動向について、既存文献に記載された統計資料を中心に分析した。

この結果に基づき、やんばる地域をとりまく観光の実態と動向から、今後目指すべき「やんばる型観光」のあり方を検討し、やんばる地域を那覇等の中南部ならびに恩納村等のリゾート地域に対する第3の観光拠点として位置づけを見直した。また、平成8～9年度のヒアリング調査と本年度調査で追加したヒアリング結果から「やんばる型エコツーリズム」展開の方向を検討し、平成10年度で提案した内容を中心に「やんばる地域における施設整備構想と住民主体の運営・普及啓発」を再提案した。

(4) 平成12年度調査(『やんばる地域基本整備構想策定調査』)

沖縄島における観光の現状とやんばる3村における観光の現状について、平成11年度報告書の内容を最新のデータ及び那覇空港や国頭村内の観光施設(ゆいゆい国頭、辺戸岬レストハウス、オクマリゾート)で実施した定量意識調査で補足し、その結果や歴史的経緯を交えながら再検討をおこない、やんばる型観光の展開方針と展開例を提案した。

また、平成10年度に提案したゾーニングの考え方を前提とした「やんばる型観光」の可能性について検討し、それぞれのゾーンにおける利活用の基本的な考え方を整理した。

さらに、平成10年度のゾーニングの考え方を再整理し、具体的なゾーニングを3村の現状に基づいて属地的に展開するための準備として、やんばる地域の自然環境保全度の評価を行った。

(5) 平成13年度調査(『やんばる地域保全整備計画策定調査』)

学識経験者・国頭村森林組合長・関連行政機関からなる検討委員会と住民参加によるワークショップを開催した。

検討委員会では、平成10年度から12年度までの調査結果の概要報告、平成13年度から15年度にかけて実施する『やんばる地域保全整備計画策定調査』の年度別調査事項の審議・検討、ワーキンググループの設置及びワークショップの開催についての提案等を行った。

また、検討委員会で諮った内容に従いワークショップ参加者を募集し、開催した。ワークショップでは、環境省がこれまでやんばる地域で実施してきた一連の調査の背景および目的についての説明、平成10年度から12年度までの調査結果の概要報告、ワーキンググループ設置の提案、参加者に対するアンケート調査、やんばるミニコミ誌(やんばるだより)発行についての提案、ゾーニングの考え方と保全・活用の基本方針についての提案、国立公園制度の概要についての説明、質疑応答等を行った。

(6) 平成14年度調査(『やんばる地域保全整備計画策定調査』)

平成13年度調査よりさらに具体的な検討を進めるため、国頭村、大宜味村、東村の3村担当課、沖縄県自然保護課、国頭村森林組合、地元エコツーリズム関連団体、自然保護団体等からなるワーキンググループコアメンバー会議を開催し、海外の国立公園におけるゾーニングと管理内容の事例紹介、自然環境保全度と社会状況の重ね合わせによる評価の考え方の検討、エコツアーサイト等における利用影響のケーススタディーの実施及び報告、エコツアーサイトの保全・復元・管理を考えるワークショップの提案・検討を行った。

また、やんばる地域の自然環境、生活文化、社会状況等の紹介や、環境省が平成10年度から平成12年度にかけて行った『やんばる地域基本整備構想策定調査』の概要、平成13年度調査にて実施した「やんばる地域住民ワークショップ」の概要を報告するホームページ「ようこそやんばるへ」を作成した。

さらに、コアメンバー会議で取り扱われなかったが、やんばる地域の自然環境の保全と利用について今後重要となる課題と考えられる「移入種の取り扱い」及び「観光利用の保全との両立」の2点について課題解決に向けた展望・取り組みを整理・検討した。

(7) 平成15年度調査(『やんばる地域保全整備計画策定調査』)

平成10年度から3カ年で進めてきた『やんばる地域基本整備構想』等を活用し、多様な生態系を持つやんばる地域(国頭村、大宜味村、東村の地域)を保全し、地域振興にも資するよう適切に活用するため、地元住民との調整・合意を図りつつ、国立公園計画を念頭に置いたゾーニング及び地域振興の具体的内容を含む保全整備計画案を作成した。

「やんばる」と呼ばれる地域の範囲の概念や、自然・人文の特徴を整理し、これらを元に、やんばる地域で目指すべき保全・利用地域の方向性を整理した。

将来想定される国立公園区域と、その中で保全を優先する地域、利用を促進する地域等のゾーニング試案と各ゾーンに含まれる地域の特徴、利用活用方針、利用階層別の利活用イメージ、利活用方策の考え方、配慮事項を整理した。

ゾーン毎の利活用イメージを基に、やんばる地域の利活用拠点の配置及び施設整備等のイメージを、利用サイト・利用形態毎に整理した。また、利用階層別の利用イメージ、拠点毎の利用イメージを整理すると共に、利用階層別の利用動線イメージを検討した。

やんばる地域において、自然環境保全上の問題を引き起こしていると考えられる主要因と対応する課題を整理した。これを元に、やんばる地域における保全方策の考え方を整理した。

また、2回のコアメンバー会議を開催し、近年やんばる地域で問題が指摘されているエコツーリズム等の自然の利用と管理について当面の対策・国立公園制度等による対応策を具体的に検討した。

地元へのやんばる地域の自然価値・重要性を普及啓発するツールとして3種類のパワーポイント資料を作成した。